

月刊しばうら

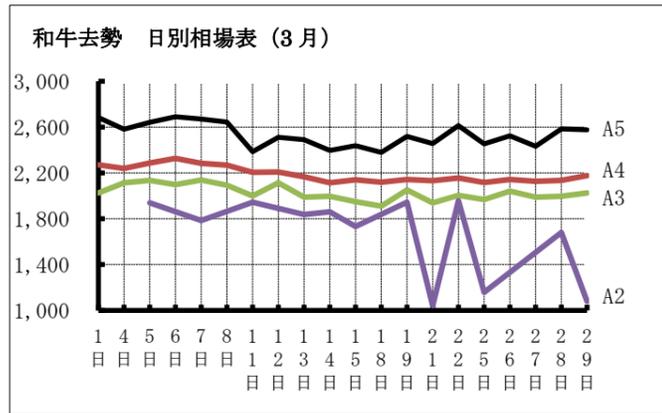
2024年4月号

牛肉営業部

<3月の相場動向>

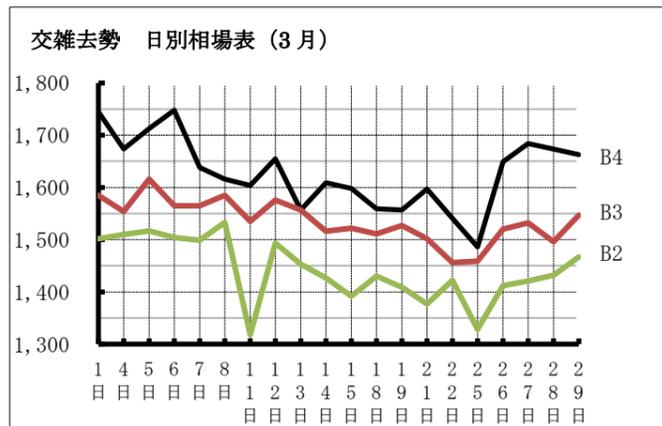
3月はアフターコロナでの歓送迎会などによる外食需要に期待が持たれたが、遅い時間帯での集客に苦戦する店が多く見受けられた。

また、小売りにおいては需要の端境期であるうえ、生活関連コストの上昇による生活防衛意識の高まりから、引き合いが切り落とし等の低価格商材が中心となったこともあり、結果として枝肉相場は和牛、交雑ともに2等級を除き前月を下回る相場展開となった。



和牛去勢 (月平均)

	加重平均	前年同月比		前月比	
A5	2,553円	-59円	97.7%	-50円	98.1%
A4	2,191円	-92円	96.0%	-87円	96.2%
A3	2,027円	+27円	101.4%	-60円	97.1%
A2	1,661円	-114円	93.6%	-272円	85.9%



交雑去勢 (月平均)

	加重平均	前年同月比		前月比	
B4	1,623円	-24円	98.5%	-63円	96.3%
B3	1,541円	+99円	106.9%	-15円	99.0%
B2	1,443円	+142円	110.9%	+12円	100.8%

乳牛去勢 (月平均)

	加重平均	前年同月比		前月比	
B3	-	-	-	-	-
B2	-	-	-	-	-

<4月の牛肉輸入量予測>

財務省が発表した輸入通関実績によると、2月の輸入量は前年同月比18.4%減の3万1,012tで、うちチルドは6.0%減の1万2,519t、フローズンも25.0%減の1万8,493tとなり、ともに前年同月比及び前月実績を下回った。

農畜産業振興機構によると3月の牛肉輸入数量は、前年同月比11.1%減の3万2,700t(チルド9.9%減・冷凍12.0%減)、4月は35.1%減の4万4,100t(チルド19.4%減・冷凍42.1%減)で予測している。輸入牛肉については現地価格の高騰と国内需要の低迷により、前年同期を下回る予測となっている。

輸入牛肉通関量		2月	前年同月	前年同月比
チルド	豪州	5,859	3,821	153.3%
	米国	5,689	8,560	66.5%
	その他	971	944	102.9%
	合計	12,519	13,325	94.0%
フローズン	豪州	7,522	7,964	94.5%
	米国	6,045	10,394	58.2%
	その他	4,926	6,306	78.1%
	合計	18,493	24,664	75.0%

出典：食肉速報 単位：t

<4月の全国出荷頭数予測>

農畜産業振興機構による4月の出荷予測頭数は、全体で前年比102.8%の9万6,400頭で、品種別にみると和牛は6.3%増の4万6,000頭、交雑種は3.1%減の2万2,900頭、乳用種は3.0%増の2万6,100頭と予測している。

東京食肉市場の4月のと畜頭数は7,800頭を予定しています。

<4月の牛枝肉相場見通し>

気象庁によると4月は気温が高い日が多く、お花見などの行楽需要や、GWに向けた手当などで相場の上昇に期待したいところではあるが、依然として生活防衛意識が高く、節約志向は継続する見込みであることから、牛肉需要が大きく回復するとは言い難い。

訪日外客数は引き続き前年実績を上回っており、更なるインバウンド需要の拡大に期待したい。

枝肉相場は和牛と乳牛については大きな上昇はないとみられるが、交雑種については量販店などからの引き合いが強まること予想され、堅調な相場展開が見込まれる。

和牛去勢	価格予測	交雑去勢	価格予測
A5	2,500~2,600	B4	1,650~1,750
A4	2,150~2,300	B3	1,550~1,650
A3	1,950~2,100	B2	1,450~1,550
A2	1,800~1,900		
乳牛去勢			
B3	950~1,050		
B2	850~950		

豚肉営業部

2月の全国と畜頭数は137万4,654頭(前年同月比4.8%増)と前年を上回った。また、2月の豚肉通関数量は6万4,527t(同9.4%減)と前年を下回り、前月比では10.5%の減少となった。内訳はチルドが3万2,342t(前年同月比4.6%増)、フローズンは3万2,220t(同20.3%減)。

2023-2024年の需給量と推定期末在庫						
月	供給量		推定期末在庫		推定出回り量	
	生産量	輸入量	国産物	輸入物	国産物	輸入物
2	72,899	71,250	19,905	189,121	71,425	70,795
3	81,586	69,027	20,232	189,572	81,112	68,576
4	73,794	109,570	20,573	204,045	73,312	95,096
5	76,116	89,726	20,193	223,902	76,372	69,869
6	73,486	81,311	19,586	225,208	73,928	80,005
7	68,264	74,831	20,758	220,067	66,926	79,972
8	70,175	73,862	21,032	217,704	69,796	76,225
9	69,500	61,727	21,452	203,477	68,945	75,954
10	78,467	70,100	19,689	192,812	80,065	80,765
11	82,650	74,813	20,154	184,253	82,084	83,372
12	81,152	67,663	21,381	170,120	79,774	81,796
1	80,283	72,051	20,836	173,172	80,748	68,999
2	77,558	64,527	21,439	165,686	76,853	72,013
比	106%	91%	108%	88%	108%	102%

出典：農畜産業振興機構 比：最終月の前年同期比 単位：t

2月 豚肉通関実績					
国名	冷蔵	前年比	国名	冷凍	前年比
アメリカ	12,042	78.7%	デンマーク	3,502	72.3%
カナダ	16,603	131.4%	スペイン	7,780	51.8%
メキシコ	3,675	124.0%	メキシコ	5,534	85.5%
			アメリカ	3,046	129.0%
			カナダ	2,492	99.5%
合計	32,342	104.6%		32,220	79.7%

単位：t

<3月の豚取引の推移>

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
1日	66,700	567	540	1,030
4日	67,100	582	540	981
5日	66,700	564	529	1,019
6日	64,500	584	537	720
7日	65,400	556	537	665
8日	59,000	563	543	969
平均	64,900/日			897/日

3月に入り徐々に春の行楽シーズンに向けた荷動きがみられた。中東情勢悪化による豚肉輸入の混乱と、円安が続いていることで国産へのシフト傾向が強まったため、安価なアイテムを中心に荷動きが堅調で、相場は500円中盤から後半で推移した。

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
11日	65,200	561	534	874
12日	67,400	557	538	971
13日	65,500	568	538	774
14日	64,600	540	515	741
15日	65,900	538	509	1,054
18日	70,800	542	522	912
19日	73,500	555	531	1,057
平均	67,557/日			912/日

引き続き欧州産を中心とした輸入物に物流の遅れがみられ、全体的に輸入相場が高値で推移していることから、国産豚肉相場はこの時期としては底堅く推移した。

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
21日	72,800	530	493	1,005
22日	69,800	540	511	1,111
25日	66,900	534	516	941
26日	70,300	531	514	832
27日	68,200	543	514	791
28日	69,300	530	516	666
29日	64,200	530	508	1,067
平均	68,786/日			916/日

祝日により稼働日が少なかったことから、全国と畜頭数は7万頭を超える日もあった。学校給食が春休みで休止したことからの荷動きが鈍化し、相場は軟調な展開となった。

<4月の豚枝肉相場見通し>

農林水産省による令和6年4月の肉豚出荷予測では143万頭(前年同月比104%)と予測している。

当市場の4月のと畜予定頭数は1万8,000頭、1日あたりでは約857頭を見込んでいます。

農畜産業振興機構によると4月分の豚肉輸入見込数量は、総量で7万8,300t(前年同月比71.5%)、内訳は冷蔵輸入量が3万2,400t(同97.3%)、冷凍輸入量は4万5,900t(同60.2%)と予測。

冷蔵品輸入量は為替の影響に加え、北米産の現地相場高などから、前年同月をわずかに下回ると予測する。同じく3ヵ月平均でも前年同月をわずかに下回ると予測する。

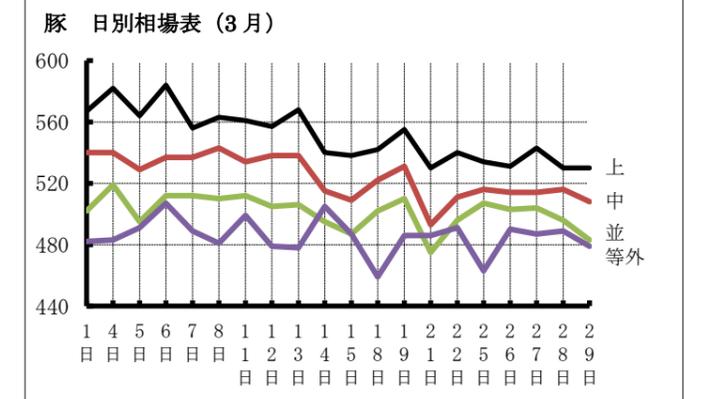
冷凍品輸入量は為替の影響や現地相場高に加え、例年行われていた通関保留がなかったことから、前年同月を大幅に下回ると予測する。同じく3ヵ月平均でも前年同月を大幅に下回ると予測する。

4月は学校給食の再開による手当てが始まり、春の行楽シーズンに加え、中旬からはGWに向けた動きが強まるため、末端需要は好転することが予想される。気象庁によると4月は気温が高い日が多くなる予想で、歓送迎会などのイベントなどによる焼材の引き合いの強まりに期待が高まる。

供給面ではGW前後の駆け込み出荷によって一時的に多くなる日もありそうだが、いまだ終息しないPEDなどの疾病の影響もあり全体的には減少傾向となりそうだ。

輸入量は現地相場高と円安に加え、欧州産フローズンが入船遅延などで不安定な状態にあることから、国産枝肉相場は底堅い展開が予想される。

以上のことから当市場の上物平均価格は600円前後、中物平均価格570円前後の展開と予測する。



東京都港区港南2-7-19

東京食肉市場株式会社

TEL:03-3740-3111 FAX:03-3472-0127